

令和4年度
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和 4年11月 8日

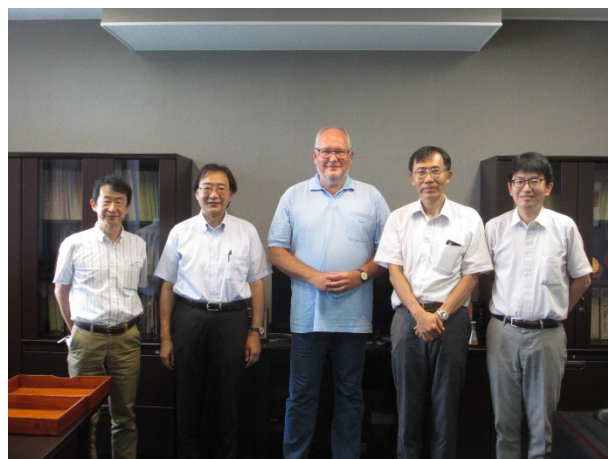
三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 ロイトリンゲン大学（ドイツ）・Thorsten Zenner
2. 受入研究者 所属・職・氏名 工学研究科・教授・駒田 諭
3. 招へい期間 令和 4年 9月 9日 ~ 令和 4年 10月 15日
4. 活動実施の内容とその成果 (注) 任意の形式（ただしA4サイズ）にて作成したものを添付してください。写真等の記録も添付してください。

ロイトリンゲン大学 Thorsten Zenner 教授の活動実施の内容とその成果

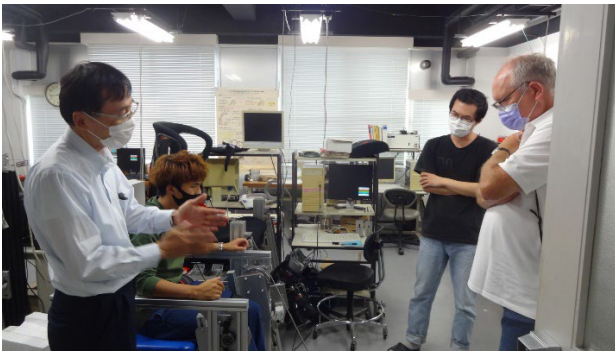
Zenner 教授は9月10日に関西国際空港に到着し、12日に津に到着された。工学研究科に移動し、滞在中に過ごされる電気電子工学専攻内に用意した部屋に案内した。11:00に工学研究科長室を訪問し、池浦研究科長、久保教務委員長、金子国際担当と面会した。工学研究科長から工学研究科の説明が行われ、懇談が行われた。



13日から1日2コマずつ4日間連続で、工学研究科の国際特別講義Iにおいて“Communication and Security”の講義を行った。パワーポイントを使いながら説明を行うが、受講者11名に質問を投げかけながら一方通行ではない形式で講義を行った。講義の翌週の21日には学生2人1組でパワーポイントを使ったプレゼンテーションが行われ、受講者の成績評価に用いられた。



20日と21日には工学研究科電気システム工学講座の各研究グループの見学が行われた。エネルギーシステム研究室の山村准教授からは発電に関係した実験装置の説明が行われた。制御システム研究室では弓場井教授の学生から制御理論を応用した実験装置の説明が行われ、矢代助教よりモーションコントロールに関する実験装置のデモが行われた。電機システム研究室では小山助教よりモータ制御に関する説明が、駒田教授より人間環境でのロボット、下肢の筋力評価とアシスト装置に関する説明が行われた。見学の後には Zenner 教授と見学を行った教員との懇談が行われ、今後の国際交流等に関して話し合われた。



9月22日には電気電子工学専攻情報処理研究室の川中准教授より研究内容の説明を受けるとともに研究に関する情報交換を行った。情報処理研究室には主に深層学習を中心とした画像認識技術やその医療・産業分野への応用に関する研究を行っており、多くの研究が国内外の研究機関や海外との共同研究プロジェクトとなっている。また、同研究室にはアルジェリア、スリランカ、ドイツからの留学生が在籍していることから、研究に関する意見交換だけではなく日本での日常生活や習慣の違いなど、日本と他国との文化の違いなどについても情報交換がなされた。

9月27日には講堂小ホールにて Decentralized Hydrogen infrastructure (分散型水素インフラ) と題する講演会を工学研究科が主催、国際環境教育研究センターが共催となって開催した。本講演はSDGsの17の目標の中の7番目の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と13番目の「気候変動に具体的な対策を」に関係しており、水素を活用したエネルギー供給を経済的に実現するための取り組みを、ロイトリンゲン大学におけるプロジェクトの紹介を含めて講演が行われた。講演の後には会場で参加した方々から多くの質問が出た。参加者数を表にまとめたが、教職員32名、学生133名、合計165名が参加した。なお、zoomによる配信も行った。

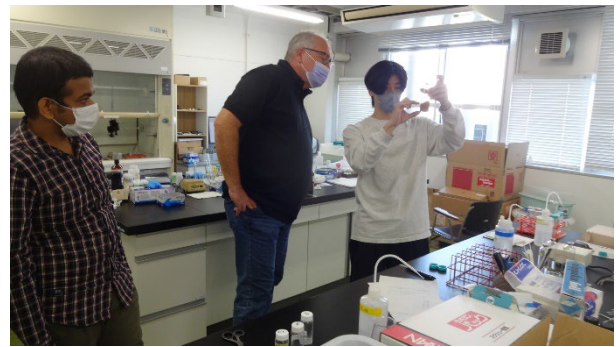
	講演参加者		
	講演会場	zoom	合計
教職員	13	19	32
(工)博士後期課程	5	5	10
(工)博士前期課程	38	53	91
工学部学部生	16	15	31
他学部学生		1	1
合計	72	93	165



9月28日には工学研究科の情報処理／情報通信分野（研究領域C）の国際シンポジウムに参加し、学生のポスター発表を聴講した。国際シンポジウムでは、大学院博士前期課程の学生を中心に52件の発表があり、各学生のポスターを見学して回るとともに、学生と研究に関するディスカッションを行った。また、シンポジウムに参加していた電気電子情報工学専攻や情報工学専攻に所属している留学生と研究や日本での生活、卒業後のキャリアパス等についても意見交換を行った。



9月30日には工学研究科分子素材工学専攻の金子教授の研究室を訪問し、水素関係の見学と研究内容の説明を受け、意見交換が行われた。



同日には、工学研究科電気電子工学専攻に10月から交換留学で来日した、ロイトリンゲン大学からの学生4名と、パリ工芸大学からの学生3名との顔合わせが行われたが、その際に Zenner 教授が参加され、留学生と懇談した。

10月4日から1日2コマずつ4日間連続で、工学研究科の国際特別講義 II において“System Engineering”の講義を行った。10月から来日したドイツのロイトリンゲン大学からの交換留學生4名とフランスのパリ工芸大学交換留學生3名と三重大学の学生3名が参加して国際共修で行われた。講義ではコンピュータを用いた実践活動が行われた。講義の翌週の13日には学生2人1組でパワーポイントを使ったプレゼンテーションが行われ、受講者の成績評価に用いられた。



10月13日には Zenner 教授の送別会が行われ、講義に参加した学生や関係する教員が参加して滞在中の労をねぎらい、今後の交流が話し合われた。

14日には大阪に向かい、翌日には関西国際空港より帰国した。

ロイトリンゲン大学からは毎年2名以上が交換留学で来ており、Zenner 教授は2020年に長期で三重大学に滞在する予定であったが、新型コロナウイルスの影響でキャンセルとなった。今回は約1ヶ月の滞在ではあったが、講義を2回と講演を1回行うことで三重大学に貢献し、学生や教職員の方々と積極的に関わり、交流を深めた。日本のお茶、食、宗教等に造詣が深く、それらに興味深く関わった。